

取り組み名 地元の木を使って「ウッドマイレージ」を減らそう!

# ウッドマイレージって、知ってはる?

高校生がチャレンジ!

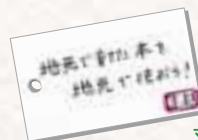
家作りの輸入材を国産材に替えるウッドマイレージで、CO<sub>2</sub>削減。

京都府



京都大学が開発した、間伐材を有効利用する工法「J-podシステム」を採用。

地域の要望に応じて家具やログハウスを受注生産。写真のログハウスは、地域のバス停として活用されている。



1200年のあいだ日本の首都であった平安京。この都の造営に木材を供給したのが、京都の北山地域です。1200年間にわたって蓄積された林業技術は、世界に誇る京の建築文化を支えてきました。しかしその北山林業も、不況にあえぎ衰退しています。

この地域に立地する北桑田高校は、地元産のスギ・ヒノキ材を使ったログハウスや家具を製作・提供しています。平成18年度、木材の地産地消がウッドマイレージ(木材の輸送距離)を短縮してCO<sub>2</sub>排出を削減することに着目し、京都府から学校法人では初めて「府内産木材取扱事業体」として認定を受けました。木製品販売時には、「地元産木材を使用するとどれだけCO<sub>2</sub>排出が削減できるか」をPRしています。

平成19年度には、京都大学が開発した、間伐材を有効利用する新建築工法「J-podシステム」でモデルハウスを試作し、地元産の木材の新しい利用法を提案。「木材の地産地消」「ウッドマイレージ」という耳慣れない概念を普及するため、高校生の教育機関としての役割を超え、地元の木材産業やそこで働く人たち、研究機関と連携しながら、消費者に対する地元産木材の普及啓発に努めています。



地域のお祭りでウッドマイレージのPRを行うなど、校外での活動も積極的に行っている。なお、この写真のログハウスでガソリン約147リットルを節約できる。

### 講評

日本の重要な課題である木材の地産地消の問題に、地元の高校生が取り組んでいるところを評価しました。京都の風土とも合致しており、産・官・学の連携が見事。「地域特性」「独自性」の項目に審査委員全員が5点満点をつきました。地元の京都大学とも連携し、京大が開発した、間伐材や雪害木などの低級材を利用できる工法を採用しています。地元北山杉のブランドやそれに対する誇り、高校生の若い熱意によって、地場産業の再生と存続をかけて挑戦して欲しいです。今後の展開と波及効果に期待しています。

### 受賞者コメント

京都府立北桑田高等学校森林リサーチ科  
発表生徒代表 江口 武

地球環境に優しい社会を築いていきたい



京都議定書の発信地である京都府代表として、応援して下さる皆さんの期待に応えようと、精一杯頑張ってきました。結果発表のとき最後まで呼ばれなかったのが、入賞できなかったらどうしようと思い、とても緊張しました。最優秀賞の紹介で私たちが呼ばれたときは、まだ信じられませんでした。鴨下環境大臣と握手したとき最高の充実感を感じました。高校生でもここまでやれることが証明できてとても感動しました。卒業後も、地球環境に優しい社会を築けるよう頑張りたいと思います。



指導担当教諭 原田 真自

支援して下さる皆さまの思いを結集し、授賞することができました。

本校森林リサーチ科は、発足以来一貫して「地元の木を使おう!」と社会に働きかけてきました。数年前から温暖化防止活動の気運が高まってきた波に乗り、別の視点からも地元産材のPRを始めました。このことが高く評価され、本校を支援して下さる皆様の想いを結集し、今回受賞できたことを大変嬉しく思います。手間暇を惜しまず、気候風土を生かし、自然の恵みに感謝できる真に豊かな生活を、京都議定書をきっかけに見直して欲しいと思います。この大会で発表されたすべての活動には、そんな願いが随所に込められ意義深いものでした。

団体名:京都府立北桑田高等学校 森林リサーチ科  
所在地:京都府京都市右京区  
ウェブサイト:<http://www1.kyoto-be.ne.jp/kitakuwada-hs/>

都道府県大会の名称 きょうとECO-1 (エコワン) グランプリ